

オープンソースソフトウェア開発者 オンライン調査日本版 FLOSS-JP

The Online Survey on Free/Libre/Open Source Software Developers in Japan

比屋根 一雄[†]
hiya@mri.co.jp

清水 浩行[†]
hshimizu@mri.co.jp

谷田部 智之[†]
tyatabe@mri.co.jp

飯尾 淳[†]
iiojun@mri.co.jp

概要 オープンソースソフトウェアはどのような動機で作られるのか？ オープンソースのコミュニティが成立する理由は何か？ オープンソース開発者の処遇は十分なのか？ — これらの疑問を明らかにし、オープンソースソフトウェア現象の社会学的な研究を目的として、開発者に対するオンラインアンケートによる調査の試みが海外でいくつか行なわれている。しかし、日本のコミュニティに対するアナウンスが不十分であったことや、質問が全て英語であったことなどの理由により、これらの調査に対する日本人の参加数は極端に少なく、日本人オープンソース開発者の実態は明らかにされていない。本稿では、そのために現在実施しているオープンソースソフトウェア開発者オンライン調査「FLOSS-JP」を紹介し、調査の中間結果を報告する。

1 はじめに

我々は自ら企業におけるオープンソースプロジェクト [1, 2, 3] を進め、オープンソースソフトウェアの政府採用に関する情報発信 [4] を行う傍ら、オープンソースソフトウェアによるビジネスの方法を模索してきた。昨年頃から、電子政府の実現やシステムの政府調達におけるオープンソースソフトウェア採用の議論が白熱し、それに伴い企業におけるオープンソースビジネスの過熱にも拍車がかかっている。さらに、オープンソースソフトウェア開発をもり立てていくことで日本の IT 産業の活性化を図れるのではないかと期待も高まっている。

ところでオープンソースソフトウェアを語る際には開発者コミュニティの存在を無視することはできず、また開発者そのものがオープンソースソフトウェアの資源であることも徐々に認知されてきた。そこでオープンソース開発者に対する政府や企業による支援の是非が問われる機会も増えてきた。

政府や企業がオープンソースコミュニティや開発者に対して支援を行なった結果として効果的な成果を挙げるためには、まずはそのコミュニティや開発者がどのような人たちなのか、ど

うして欲しいのか、ということ事前に十分理解しておく必要がある。

このような状況を背景として、オープンソースソフトウェア開発者の実態を探り、その生態を明らかにする調査プロジェクトが近年いくつか実施された。その結果は様々な立場の視点から、非常に注目されている。

今回我々は日本のオープンソースコミュニティを対象を絞り、その開発者の考え方などを分析するためのオンライン調査を計画した。本論文では、関連する類似の調査の紹介と今回のオンライン調査の手順、内容などについて説明する。

2 オープンソース開発者調査

本節では、まず過去に実施された関連研究と今回実施した調査の背景について説明する。

2.1 関連研究

オープンソースソフトウェア開発者の実態を探ることを目的とした調査プロジェクトには、ベルリン工科大学の G. Robles らによる WIDI (“Who Is Doing It ?”) フリーソフト/オープンソース開発者調査 [5]、OSDN の J. Bates らによるハッカー調査 (“Hacker Survey”)[6]、マーストリヒト大学情報経済学国際研究所 (International Institute of Infonomics) の R.A.

[†] 株式会社三菱総合研究所 情報技術研究部

Ghosh らによる FLOSS*¹ 調査 (“FLOSS Survey and Study”)[7] がある。

とくに FLOSS 調査は FLOSS 開発者の実態調査だけではなく、現代経済において FLOSS が占める役割の重要性を示すために、FLOSS に関するあらゆるデータを収集することを目的とした大規模な調査プロジェクトである。調査は大きく以下の 5 つに分けられて実施された。

1. 企業や公的機関における FLOSS の利用
2. 企業・公的機関における FLOSS 活動
3. FLOSS 市場とビジネスモデル
4. 開発者調査
5. ソースコード調査

なかでも 4. の開発者調査では、2002 年の 2 月から 4 月にかけて行なわれたオンラインアンケートでおよそ 2800 件もの回答を収集し、綿密な分析が行なわれた。その結果には、欧州諸国における FLOSS 開発者像が明確に描かれており、資料的価値が高い。

また FLOSS 調査の続編として、スタンフォード大学経済政策研究所 (SIEPR, Stanford Institute for Economic Policy Research) が FLOSS-US を実施している [8]。

こちらは本稿執筆時点では回答結果のみが発表され、分析結果は未発表である。アンケートそのものは英語で行なわれているが、FLOSS-US 調査のアナウンスはオランダ語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、中国語で各国に向けて行なわれている。

2.2 FLOSS-JP 調査の背景

世界でこのような調査が行なわれているなかで、FLOSS の結果、あるいは FLOSS-US への参加状況を見ると日本のオープンソースソフトウェア開発者の声が届いていないように見受けられる。

日本でも優れたオープンソースソフトウェアは多く開発されており、日本におけるオープンソースソフトウェア開発がとくに活発でないということはない。ソフトウェア産業に従事する開発者人口から勘案しても、欧米に肩を並べる程度のオープンソースソフトウェア関係者は居るはずだが、FLOSS の結果で国別の回答者数

をみると日本の参加者比率は潜在的開発者人口比率に対して極端に少ない数値となっている。

その理由のひとつとして、言葉の壁を挙げられるだろう。

FLOSS 調査、FLOSS-US 調査はいずれも、英語でアンケートが行なわれている。オープンソースソフトウェア開発の標準語には、デファクト標準として英語が利用されている。したがって開発者は英語にはそれほど抵抗がないはず、と考えられているものの、実際に英語の情報源に日常接している層が全てではない。

日本語でのアナウンスが無かったこと、あるいは FLOSS の存在は知っていても英語ということで回答に高い抵抗感を感じたことなどが、日本からの参加者数が多くなかった要因のひとつと考えられる。

そこで、FLOSS を日本語化した日本版 FLOSS として FLOSS-JP 調査を計画した。この調査は本家 FLOSS を実施したマーストリヒト大学と連携して行なわれ、その結果の一部は本家 FLOSS にもフィードバックされる予定となっている。

3 FLOSS-JP

次に、FLOSS-JP 調査の概要と質問の内容について述べる。

3.1 調査方法

FLOSS-JP 調査は、FLOSS、FLOSS-US と同様にオンラインアンケートを用いて開発者から直接に意見を収集することを試みる。

オンラインアンケートは我々の所属する組織が提供しているオンラインアンケートサービスのシステムを利用し、下記の手順で実施する。

1. アンケート登録ページの URL を各オープンソースソフトウェア関連 ML やニュースサイト、ニュースリリース、他メディアを通じて可能な限り広範囲に宣伝する。
2. アンケート登録ページでは、アンケート実施ページの URL の送付先アドレスの入力を求める。重複回答を防止するため、アンケート実施ページの URL は各メールアドレスに対して一意に発行される。

*¹ FLOSS とは、Free/Libre/Open Source Software の頭文字を意味する。

3. メールで通知されたアンケート実施ページの URL にアクセスし、オンラインアンケートに回答する。

FLOSS-US では接続元 IP アドレスを利用した一意性確保の対策が講じられていたが、企業などからのプロキシサーバ経由でのアクセスを勘案してメールアドレスを利用した一意性確保手段を用意した。なおメールアドレスは個別に用意されるアンケート実施ページの URL を通知する手段としてのみ利用し、個人情報としては記録しない。

3.2 調査内容

FLOSS-JP では、オープンソースコミュニティの著名人や経済産業省の委託により運営されているアジア OSS 調査委員会の各委員、FLOSS を実施した Ghosh らのアドバイスも取り入れてアンケートを設計し、以下の内容に関する質問票を作成した。

オープンソースとフリーソフトウェア オープンソースソフトウェア (OSS) とフリーソフトウェア (FS) は本質的には同じだが、文化的に差異があると言われている。本質問を通じて、開発者は本当に気にしているのかを明らかにする。また関連する項目としてライセンスの選択に関する設問も用意した。

OSS/FS に関する経歴 OSS/FS 開発や各プロジェクトに参与した経験の年数を質問する。

OSS/FS 開発活動 実際に関与しているプロジェクトや開発状況、開発手段の具体的な状況を把握するための質問群である。プロジェクトやコミュニティ、コミュニケーション、資格、学習方法などについても触れている。

OSS/FS 開発の動機、期待、考え方 オープンソースソフトウェア開発やオープンソースコミュニティ活動に関与する動機や関与し始めたきっかけ、他の開発者やコミュニティに対する期待、関わり具合、署名に関する考え方などを明らかにする。

OSS/FS 開発の対価 一般にボランティアといわれているオープンソース関連活動が

実態としてほんとうにそうなのか、直接的・間接的に収入がなかったのか、支援の状況、活動に対する周囲の理解など、主に個人の経済的な視点についての設問である。

開発者個人について オープンソースソフトウェア開発者の分布を探るため、性別、年齢*2、家族構成、職業、収入、居住地などの概要を質問する。

質問は全て選択肢を用意し、自由記述欄による回答は排除した。その理由としてはアンケート集計の簡略化がひとつである。

さらに、後述するように本アンケートをアジア各国語に翻訳して現地語でオンラインアンケートを行なう FLOSS-ASIA 調査の実施を想定した上で、システム実装上の問題が発生する可能性があったことも自由記述を排した要因である。

また本プロジェクト実施者が必ずしもアジア各国語に精通しているわけではなく、アジア各国語で自由回答された場合の分析コストが非常に高くなることも予想されたため、自由記述による回答の収集は断念した。

4 中間結果と考察

4.1 中間結果

本調査は 2003 年 9 月～10 月にかけて実施されている。9 月 1 日から 9 月 30 日までの中間段階での回答 (回答者数: 328 名) の単純集計結果をもとに、各内容について考察を行なう。

オープンソースとフリーソフトウェア、ライセンス

Q1 立場 OSS と FS は厳密には違います。あなたはどちら側の立場ですか?

FS: 26.5% OSS: 44.5% 気にしない: 29%

Q2 コミュニティ FS コミュニティと OSS コミュニティは違うものだと思いますか?

はい。考え方も仕事の仕方も違う: 36.9%

はい。原則は違うが仕事の仕方は同じ: 34.5%

いいえ。気にしていない: 28.7%

Q3 ライセンス 自分の作成したコードに自由にライセンスを選択できるとしたら、どのようなライセンスを選びますか?

*2 年齢は経歴の項目から明らかとなる。

GPL 互換: 44.2%
 BSD スタイル: 19.6%
 とくに意識しない: 11.6%

71%の回答者はオープンソースとフリーソフトウェアを区別しており、オープンソースの支持者が 44.5%である。しかし、ライセンスに GPL を選択する回答者も同程度 (44.2%) いる。2つのコミュニティの仕事の仕方については意見が分かれている。

OSS/FS に関する経歴

Q4 OSS/FS 開発参加年

~1989年: 4.8% 90~94年: 10.5%
 95~99年: 33% 2000年~: 51.6%

Q5 OSS/FS 開発開始時の年齢

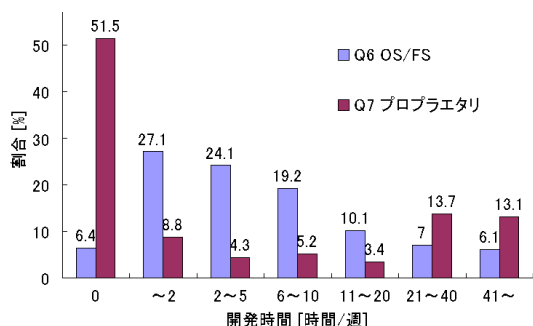
~20歳: 14.5% 20代: 52.6%
 30代: 28% 40歳~: 4.8%

開発をはじめた年齢は20代、30代が大多数 (90.6%) を占め、また、関与しはじめた年も90年代後半以降が多い (84.6%) ことから、回答者の現在の年齢は20代、30代が中心と考えられる。

OSS/FS 開発活動 – 開発時間 –

Q6 OSS/FS 開発時間 一週間に平均して何時間くらいを OSS/FS の開発にあてていますか?

Q7 プロプラエタリソフトウェア開発時間 一週間に平均して何時間くらいをプロプラエタリソフトウェア*3の開発にあてていますか?



プロプラエタリソフトウェアの開発時間と比べて OSS/FS の開発時間は短く (プロプラエタリソフトを開発していない者は除く)、業務ではなく趣味・余暇的に開発している人が多いと推測される。

OSS/FS 開発活動 – 開発環境 –

*3 商用ソフトウェアのように、改変・再配布の権利が独占されているソフトウェアのこと。

Q8 開発対象 開発している分野は?

ネットワーク: 38.4%
 ウェブサービス: 31.4%
 ホーム/デスクトップ: 21.6%

Q9 開発プラットフォーム (PF) 最もよく使う PF は?

Q10 プログラミングを始めた PF は?

Q11 OSS/FS 開発を始めた PF は?

Q9: Windows 31.4% Debian 17.7% Redhat 17.4%
 Q10: DOS 22.3% Windows 15.9% Mac OS 4.6%
 Q11: Windows 27.1% Redhat 10.7% Slackware 8.5%

現在および OSS/FS 開発を始めたプラットフォームが Windows や Linux 系であるのに対し、プログラミングの開始時には DOS を使っていた回答者が多く (22.3%)、従来からプログラミングに親しんでいた層が OSS/FS 開発に参加するようになったと考えられる。

Q12 開発言語 経験のある開発言語/ツールは?

C: 86.9% HTML: 79.3%
 C++: 65.2% Perl: 64.9%
 Unix Shell: 62.8% Java: 57.6%

Q13 デスクトップ環境

Windows: 43.6%
 X + Window Manager: 18.6%
 GNOME: 18.6%

Q14 エディタ

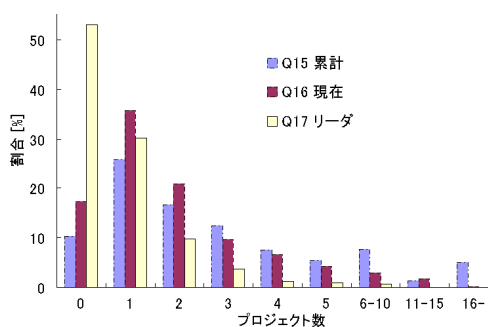
Emacs: 39.6%
 vi: 21%
 統合開発環境: 12.8%

OSS/FS 開発活動 – プロジェクト –

Q15 累計プロジェクト数

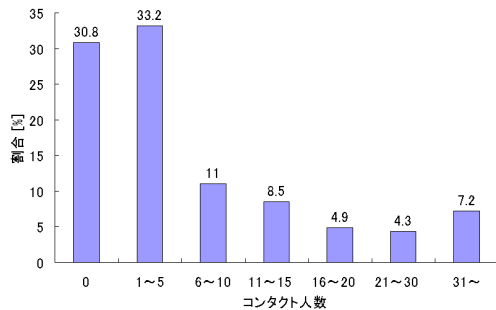
Q16 現在参加しているプロジェクト数

Q17 リーダとして参加しているプロジェクト数



大部分の回答者がここ数年に開発を始めたので、累計プロジェクト数は少ない者が多い。

OSS/FS 開発活動 – コミュニティ –
 Q18 コミュニティメンバ数 定期的にコンタクトのあるコミュニティメンバは何名居ますか？



Q19 活動場所 主な活動の拠点はどこですか？

主に国内コミュニティ:	62.2%
主にグローバルコミュニティ:	14.3%
上記の混在:	23.5%

Q20 活動種類 OSS/FS 開発に参加する主な活動の種類は何ですか？

メイン機能の開発:	53.0%
バグフィクス:	36.3%
改良パッチの作成:	35.1%

Q21 英語力

流暢な会話が可能、作文も辞書無しで OK:	7%
英語の ML に投稿して意見交換できる、 会話は日常会話程度なら:	26.2%
英語の文章を読むのは問題ないが、 作文と会話は苦手:	29.6%
ML や News、WWW の技術英語なら、 なんとか読むことはできる:	29.6%
英語はできない:	7.6%

Q22 コミュニティリーダー OSS/FS コミュニティのリーダーの立場の人間のうち知っている人は？

Linus Torvalds:	87.2%
Richard Stallman:	78.0%
Eric Raymond:	66.8%

コンタクトをとっている人数は 5 名以下の少人数が 67% であり、0 人と答えた人が 30.8% を占める。また、グローバルコミュニティに参加する人が 37.8% あり、比較的多いと言えるだろう。ただし、英作文が苦手な人が 66.8% あり、英語が壁になっている人が多い。

OSS/FS 開発活動 – OSS/FS の利用 –

Q23 OSS/FS の利用 OSS/FS を仕事や学業で利用していますか？

利用している: 90.5% 利用していない: 9.5%

Q24 OSS/FS 利用目的 OSS/FS をどのように利用していますか？

アプリケーションのエンドユーザとして:	86.0%
プログラム開発ツールとして:	81.7%
システム構築の部品として:	52.4%
OSS/FS 自体を自作プログラムへ組込む形で:	45.4%

90.5% の人は仕事や学業などで実際に OSS/FS を使用している。

OSS/FS 開発活動 – 資格と学習 –

Q25 OSS/FS 資格

LPI 認定:	2.4%
RHCE:	1.2%
ORACLE MASTER Linux+:	1.2%
持っていない:	93.0%

Q26 学習方法 開発に関する知識は何から学びましたか？

独学:	61.6%
企業の実務:	12.5%
コミュニティ:	10.4%

OSS/FS に関する資格の保持者はほとんどいない (7%)。コミュニティや独学で開発に関する知識を学んだ人が 72% と多く、これらの人は資格に興味がないと考えられる。

OSS/FS 開発の動機、期待、考え方

Q27 自分の動機 OSS/FS 開発に参加する動機は何ですか？

Q28 他人の動機 一般的には OSS/FS 開発に参加する動機は何だと思いますか？

	Q27	Q28
新たなスキルを学び、開発する	68.0%	44.2%
知識とスキルを共有する	51.5%	47.0%
プロプラエタリソフトウェアでは 解決できない問題を解決する	31.4%	39.9%

Q29 開発のきっかけ OSS/FS への最初のかかりは、何でしたか？

自分で書いたプログラムを公開した:	39.0%
patch をおくれた:	15.5%
バグ報告をした:	11.0%

Q30 自分の期待 他の OSS/FS 開発者に何を期待しますか？

知識とスキルの共有:	57.9%
プロプラエタリソフトウェアでは 解決できない問題の解決:	39.0%
コミュニケーションと議論への参加:	33.2%

Q31 他人の期待 他の OSS/FS 開発者はあなたに何を期待していると考えますか？

知識とスキルの共有:	43.3%
コミュニケーションと議論への参加:	34.1%
他の開発者によるソフトウェアの改良:	28.4%

Q32 OSS/FS コミュニティの目的 OSS/FS コミュニティが存在する目的は何だと思いますか？

知識を共有するため: 60.1%
 自由なソフトウェア開発のため: 47.6%
 楽しみを見い出すため: 47.6%

貢献と利益

Q33 自分のバランス OSS/FS コミュニティから得る利益と、コミュニティに対する貢献を比べたとき、自分のバランスはどうですか？

Q34 他人のバランス

	Q33	Q34
利益 > 貢献:	50.3%	29.6%
利益 < 貢献:	7.6%	12.2%
利益 ≈ 貢献:	7.3%	5.8%

知識やスキルを求めてコミュニティに参加している人が多く、また、他人もそうであると考えている。そして、他人の方が自分よりも周囲に貢献していると考えている。開発に参加してから日が浅いためか、謙虚さからか、自分よりも他人の方がすぐれていると考えているようだ。

署名の重要性

Q35 署名の重要性 ソースコードに自分の署名は記載しますか？

する。重要。本名で記載することが大切だ: 36.0%
 する。重要。ただしハンドルが望ましい: 24.4%
 する。でもそれほど大切ではない: 31.1%
 しない: 8.5%

署名はした方がよいとは感じているが、あまり重視していない。

OSS/FS 開発の対価

Q36 直接的報酬 OSS/FS に関連した収入源はありますか？ またその手段は何ですか？

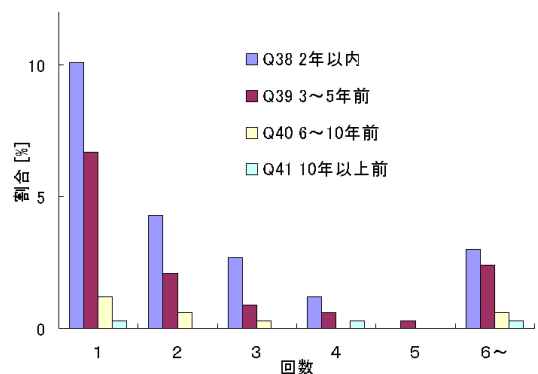
ない: 72.6% 開発: 12.2%
 システム管理: 4.9% サポート: 3.4%

Q37 間接的報酬 OSS/FS に関連した間接的な報酬はありますか？

なかった: 58.8%
 OSS/FS の経験に関する仕事を得た: 11.0%
 あった。それとは関係なく仕事をしている: 11.0%
 あった。仕事には直接関係ない: 11.3%
 間接的な報酬があった。上記以外の状況: 7.9%

OSS/FS 関連でのプロジェクト支援

Q38~41 回数 支援を受けた回数は何回ですか？



Q42 支援者 過去5年間で、どこから支援を受けましたか？

支援はない: 71.6% 政府・公的基金: 10.4%
 個人的寄付: 8.5%

OSS/FS の開発によって何らかの対価を得ている人は少数であり、無収入の人が多い (Q42: 77.4%)。支援を受けている人では公的資金の割合が 10.4% でもっとも高い。

OSS/FS 開発の認知

Q43 OSS/FS 開発認知 会社 (学校) とあなたの関係はどうですか？

OSS/FS にかかわり、対価をもらっている: 7.0%
 会社はかかわっていることを知っている: 37.2%
 会社が OSS/FS にかかわる仕事に任命した: 11.3%
 会社はかかわっていることを知らない: 42.7%
 会社はかかわってほしくないと考えている: 4.9%

Q44 OSS/FS 開発認知希望 会社 (学校) とあなたの関係はどうあってほしいと思いますか？

OSS/FS にかかわり、対価を認めて欲しい: 26.2%
 会社はかかわっていることを認めてほしい: 29.0%
 会社はかかわる仕事に任命してほしい: 8.8%
 会社は知らないままでいてほしい: 12.5%
 かかわってほしくないと考えていてもよい: 5.8%

OSS/FS との関わりを会社に知られていない人が 42.7%いるが、会社に認知、評価してほしいと考えている。

OSS/FS 関連での収入

Q45 OSS/FS 関連収入 昨年度に OSS/FS 関連で得られた収入はどのくらいでしたか？

無収入: 77.4% ~120万円: 12.5% 120万円~: 10.1%

開発者個人について - 性別・家族 -

Q46 性別 男性: 97.9% 女性: 2.1%

Q47 家族構成

未婚 (パートナーなし): 46.0% 既婚: 41.8%
 未婚 (パートナー有り): 11.6% 離婚 死別: 0.6%

開発者個人について - 学歴 -

Q48 学歴

中卒・高校卒:	19.8%	専門学校卒:	8.5%
大学卒:	36.9%	大学院卒:	27.7%
博士課程卒:	7.0%		

開発者個人について - 職業 -

Q49 業種

ソフトウェア技術者: 40.5% プログラマ: 9.5%

Q50 収入 年収はどのくらいですか。

~120万円	18.3%	~360万円	20.7%
~600万円	31.7%	~900万円	21.6%
~1200万円	5.2%	1200万円~	2.4%

開発者個人について - 居住地 -

Q51 国籍 日本: 99.7% 米国: 0.3%

Q52 現居住地 日本: 96.6% 米国: 1.8%

Q53 出身地

[回答者の割合]

東京都: 17.1% 北海道: 6.7% 神奈川県: 6.4%

[100万人あたり回答者数]

富山県: 5.3人 山口県: 5.2人 福井県: 4.8人

Q54 学生時代の居住地

[回答者の割合]

東京都: 24.1% 神奈川県: 7.6% 大阪府: 7.0%

[100万人あたり回答者数]

京都府: 7.2人 東京都: 6.6人 宮城県: 5.1人

Q55 現在の居住地

[回答者の割合]

東京都: 26.5% 神奈川県: 13.1% 埼玉県: 7.6%

[100万人あたり回答者数]

東京都: 7.2人 神奈川県: 5.1人 京都府: 4.9人

ほとんどが男性で、既婚者と未婚者がほぼ半々である。学歴は大学院卒以上が34.7%を占め、比較的高学歴である。

出身地、学生時代の居住地、現住所と年を追うにつれ、首都圏への集中傾向が見られる。また、各都道府県の人口あたりの回答者数を見ると、京都府の割合が高い。なお、都道府県別人口データは2000年のもの[9]を利用した。

4.2 FLOSS (欧州版) との比較

オープンソースとフリーソフトウェア

欧州調査ではFS側と回答した人が48.0%おり、日本とは逆の結果 (FS: 65%、OSS: 44.5%) になっている。日本の回答者は思想ではなく、

近年のオープンソースブームの影響で立場を選んでいる可能性がある。

OSS/FS に関する経歴

開発開始年齢は欧州調査が22.9歳、日本が26.8歳と、日本の方がかなり高くなっている。

OSS/FS 開発活動

欧州調査では開発環境はDebianが半数近くを占め、Windowsは5%以下である。Windows環境でOSS/FSを開発・利用する(31.4%)、ということは日本の特徴であると言える。

OSS/FS 開発の動機、期待、考え方

欧州調査も日本同様、知識やスキルを求めている人が多いが、日本のように、他人の方が知識・スキルを重視していない、と考える傾向は小さい。

OSS/FS 開発の対価

欧州調査では約半数の人が金銭的な対価を受けとっているのに対し、日本ではわずか7%である。間接的な報酬は同程度である。日本も会社に認知して欲しいという希望は大きく、支援をしていくべきだろう。

開発者個人について

日本では既婚者の割合が高い (欧州調査では約20%)。これは平均年齢が高いこととの関係が大きいと考えられる。

情報系の学生の割合が欧州調査(15%)の半数(7.6%)である。日本とEUの情報系大学での環境や教育方針の違いとも考えられる。

5 今後の展開

FLOSS-JPのオンライン調査は2003年9月、10月の2ヶ月間をアンケート回答受付期間とする。またオンライン調査だけでなく、同様の設問を記した紙ベースの回答も受け付ける (Linux Conference 2003 会場で実施予定)。

2003年11月より集計と分析を行ない、その結果は逐次、様々なメディアを通じて報告する予定である。

5.1 東アジア、東南アジアへの展開

FLOSS-JPプロジェクトでは、アジアOSS調査委員会および財団法人国際情報化協力センターとの連携により、中国、韓国、台湾および東南アジア諸国を対象としたFLOSS-ASIA調査へ本調査を拡張する予定である。

FLOSS-ASIA調査の対象とする国は、以下

が想定されている。

中国、韓国、台湾、タイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン、インドネシア、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム

なお FLOSS-JP と同様の理由により、可能な限り現地語でオンラインアンケートを実施する構想であり、現在アンケートシステムの調整を行なっているところである。

FLOSS、FLOSS-US、そして FLOSS-JP および FLOSS-ASIA の結果を比較すれば、欧米と日本、アジア諸国におけるオープンソースソフトウェア開発者の立場や考え方の違いが浮き彫りになることが予想される。興味深い結果が導かれることを期待しており、その結果は逐次報告していきたい。

6 まとめ

本稿では、日本のオープンソースソフトウェア開発者の実態を探るオンラインアンケート調査「FLOSS-JP」の結果を報告した。FLOSS-JP は欧州で実施された“FLOSS Survey and Study”の日本版として実施し、設問もほぼ同様である。FLOSS-JP ではさらに FLOSS では抜けていた開発者の収入、ライセンスの嗜好、英語力、資格取得状況、開発のきっかけ等についても質問を行なった。このようなオープンソースソフトウェア技術者に対する大規模な実態調査は日本では初めての試みであり、調査実施の意義は大きいと考える。

本調査の結果が政府のオープンソースソフトウェア関連施策に活かされ、日本におけるオープンソースソフトウェアの普及が進むことを期待したい。

謝辞

本調査は経済産業省の「創造企業促進型人材育成システム開発事業 (IT 分野)」の委託を受け (株) 三菱総合研究所が実施した。本調査の実施にあたっては新部裕氏を委員長とする「アジア OSS 調査委員会」のご指導を頂いたことを深く感謝します。また、本調査のベースとなった“FLOSS Survey and Study”のプロジェクトリーダーである Rishab Aiyer Ghosh

氏には、アンケート設問に関し多大なアドバイスを頂いたことを深く感謝します。最後にアンケートに回答頂いた日本のオープンソースソフトウェア開発者の方々の協力無くして本調査は実現しなかったことを記したい。厚く御礼を申し上げます。

参考文献

- [1] 飯尾, 谷田部, 比屋根, “汎用動画像処理ソフトウェアライブラリ- MALib -,” Linux Conference 2001, <http://lc.linux.or.jp/lc2001/papers/malib-paper.pdf>, Sep. 2001.
- [2] 飯尾, 谷田部, 比屋根, “MALib: オープンソース動画像処理ライブラリ,” 画像ラボ, Vol.14, No.4, pp.81-84. Apr. 2003.
- [3] 飯尾, “オープンソースプロジェクト実践ノート,” Open Source システム導入マニュアル, pp.49-59, Sep. 2003.
- [4] “オープンソースと政府,” <http://oss.mri.co.jp>.
- [5] Gregorio Robles, Hendrik Scheider, Ingo Tretkowski, and Niels Weber, “Who Is Doing It? A research on Libre Software developers,” <http://widi.berlios.de/paper/study.html>, 2002.
- [6] K.R. Lakhani, B. Wolf, J. Bates, and C. DiBona, “The Boston Consulting Group Hacker Survey,” O’Reilly Open Source Conference, Jul. 2002.
- [7] International Institute of Informatics University of Maastricht and Berlecon Research GmbH, “Free/Libre and Open Source Software: Survey and Study,” <http://widi.berlios.de/paper/study.html>, 2002.
- [8] Stanford University’s Stanford Institute for Economic Policy Research, “FLOSS-US: The Free/Libre/Open Source Software Survey for 2003,” <http://www.stanford.edu/group/floss-us/>, 2003.
- [9] 総務省統計局, “第五十二回 日本統計年鑑 平成 15 年,” 2003.